

我が日本民族をキリストへ

日本民族総福音化運動協議会

Movement of Evangelizing All Japanese

第50号

リバイバルを超えた神の国の到来！



日本民族総福音化運動協議会 理事
コミットメント・ジャパン 浜松 牧師
安間 孝明

「この会は、『イエスは主、我らの救い主』と告白する者なら誰でも参加できます。」

これは、召天された手束総裁の言葉です。15年程前、韓国ケサンの教会での研修にお誘い頂いた時、そこに参加されていた方が異端の嫌疑を掛けられていた教会の牧師だったので、手束先生に質問すると、帰ってきた言葉でした。

実は、この牧師は一般書店で本を出版されていた方でした。個人的にはその本を読んで、異端と言われていた事に対して疑問を感じていました。悪霊追い出しに関する聖書の実例を挙げた素晴らしい内容でした。聖書には、悪霊もその解放に関する書かれていますからです。

その時、日本民族総福音化運動協議会の広さ、この会が日本のキリストの体を強め、愛し合う事を土台に置いた集まりである事を自覚しま

した。

現在、理事として活動させて頂いております。この会の存在意義をより多くの方に知って頂き、日本民族の50%以上の方が「イエスは主である。」との信仰の告白へ導かれることを願っています。そのためには、先ず、主イエスが願われたように「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」ヨハネの福音書13章34節を実践していくことが大切かと思えます。ともすると、真理を保つ事を理由に互いの違いに目をつけ、自分たちの正當性を主張するパリサイ的な空気が日本民族のキリストの体に残っているように思えます。ある地域の牧師会での会のリーフレットを配布させて頂きました。それがあある教団の方に問題視されてしまいました。「イエスは主、我らの救い主」と告白する人々は、兄弟姉妹と思っていて、私たち

をそう思ってもらえていない現実に気づきました。正直、自分の心の中に苦しい思いが湧いてきました。相手を裁く心です。『そのような偏狭な心で、主イエスが愛してくれたように自分はキリストの体を愛そうとしていると果たして言えるのか。』と自問自答することになりました。後日、私は教会を母胎として建て上げたNPO法人で障がいがある方の自立支援を行っているのですが、そこで受け止めている職員のお母様の葬儀に参列した時、問題視をされていた牧師が司式をされていました。そのメッセージを聞き、感銘を受けました。自分の心の苦味は消えていきました。改めて自分が主イエスの愛を求めていかなければ、日本民族の救いは遠いと思わされる事になりました。

*

最近、NPO法人の活動の中で大きな試練にあいました。20年ほど前

(次頁につづく)

に自宅の2階を障がいのある方のグループホームにしました。当時、開拓10年程のタイミングでした。数名の兄弟姉妹がボランティアで、12名程の方を受け入れていました。そこに反社の者に囲われ、覚醒剤を打たれ、風俗に入れられていた女性を緊急保護しました。三重大格が現れて、「鬼竜が『死ね、死ね』と言っている。」と言いい、苦しんでいました。知的障がいの子どもたちに好かれ、自分のことを「マリヤと呼んで！」と言い、そのように呼ばれて、次第に癒されているようにでした。ある時、彼女にキリストが現れ、「マリヤ、泣かなくても良い」と言われた。」と言いい出し非常に良くなっていきました。そして、洗礼を受けました。劇的に良くなったように見え、主治医が驚いて洗礼式に来てくれたほどでした。しかし、数ヶ月後、私が保証人になって入居したアパートで焼身自殺を遂げたのです。黒焦げた遺体の本人確認を終えたパトカーの中で、市の福祉課長から私たちの活動が市の助成金事業として認められた連絡を受け取りました。正直、『もう、そんな事どうでも良い！全て辞めよう。』そう思いました。けれども、知的障がいの子どもたちが7名程居て、行き場がないため、その試練を乗り越えました。現在では、130名程の方が8事業所で支援を受け、30名程の高齢者の方のデイケアも2事業所で支えられています。

*

グループホームの一つが我が家の2階にあります。ある早朝、早天祈禱から戻ると消防車に自宅が囲まれて入っていない状況でした。私の車を見つけたHさんが血相を変えて「Kさんが火をつけた。」と走り寄って来ました。車を路地に置いて外に出ると担架に乗せられたKさんが運ばれて行く所でした。消防隊の方に「付き添って下さい。」と言われて救急車に乗り込みました。意識ははっきりとあり、生年月日、氏名を答えていました。Kさんは、ある弁護士さんから相談を受け、焼身自殺による放火罪で収監されていた方でした。「触法障害者問題」と言って法を犯してしまった障がいの者の方の受け入れに取り組んでいました。面会したとき、「あんなに苦しい事2度とやりません。」と言った言葉を信じて受け止めて、3年ほど経っていました。病院に着いた時、医師は本人に向かって「もう助かりません。治療はできませんが、苦しまないようにする処置で良いですね。」と聞いてきました。Kさんは、何回か礼拝にも参加していました。事業所でも毎朝、聖書の話を聞いていました。私は、医師の言葉を怪訝そうに聞いていたKさんに「イエスを信じて、天国へ行きなさい！」と呼びかけました。頷いたように見えました。数時間後、帰らぬ人になりました。

*

私は、ある時、研修旅行に行った帰りのバスで三浦綾子さん原作の「塩狩峠」の映画を観て戻って来ました。40年ほど前、自分が救われた高校生の時、何度も観て涙した映画でした。長野正雄さんと言う明治時代の鉄道員のクリスチャンの殉職を元にした映画です。明治42年2月28日、北海道塩狩峠で連結の外れた貨車の乗客の命を自らの体を車輪の下に投げ打って止め、救った実話を元にした映画でした。観た数人と40年ぶりの涙を流しました。ふとそのとき、『長野正雄さんがキリストのためにいつでも命を捨てる決意を込めた遺書を懐に入れ、本当に命を投げ捨てたのはちようど明日だ！』と気付かされました。そして正にその日に、Kさんが自ら火をつけたのです。事件は報道されてしまい、私は批判の声にさらされました。妻は気丈に消火に当たり、バケツで水をかけて、同居の4名の命を救いました。黒く煤けた妻の姿を思い『とんでもない人生へ巻き込んでしまった。』と思った時、車の中で一人泣きました。

他人からの非難を受け、心の苦味と言うよりも、怒りに似た感情がしこりとなっていくのを感じていました。『主よ、あなたが共にいないなら、もうこの働きはできません！辞めます。』とどこかで神にもその怒りをぶつけていた自分がいます。主イエスの愛に生きる事の難しさを覚えていた

この一ヶ月でした。

親しくしていた現代ぶろだくしよんの山田火砂子監督のお別れ会の時、隣に座られたH牧師から「三浦綾子ツアー」の案内をいただきました。そのコースに塩狩峠が入っていました。『神は、全てを知っておられる。自分のために命を捨てられる程の愛をもつて愛してくれている。自分もその愛に本当に生きること問われているのだ。』このツアーに行こうと思います。そして、もう一度、主イエスが愛してくれた愛に生きる再献身に立とうと思います。

*

ギャザリングを世界に広めているデイビッド・デミアン牧師が生きたまま天に引き上げられ、主イエスの啓示を受けました。デミアン師は「日本は福音の最後のバトン・ランナーです。日本は、今まであったどんなリバイバルをも超える神の国の到来を見ます。」と言っています。それを信じます。主イエスの愛でキリストの体が愛し合った時、神の国の到来を日本は見るとは違いないと思います。

「人がその友のためにいのちを捨てるといふ、これよりも大きな愛はだれも持っていません。」

ヨハネの福音書15章13節

(新連載)

創造論の基本的考え方 ①

日本民族総福音化運動協議会 理事
レムナント出版 代表

久保 有政

「聖書の科学的記述」

これから何回かに分けて、創造論(科学的創造論、創造科学)の基本的な考え方を説明していききたいと思います。

現在、世界中で、進化論にはもはや証拠がないとして、進化論を捨て創造論に立つ科学者たちが増えています。アメリカやヨーロッパ、オーストラリアなどには、そういう創造論科学者らの団体があります。

日本でも、阿部正紀先生(元東京工業大学)、高橋清先生(元東北大学)など創造論科学者がおられますし、宇佐神実代表(ジェネシス・ジャパン)も、活発に創造論の普及活動をしています。

ある人々は、「神は進化を通して生物や人間を造ったと考えてもいいんじゃないか」と言いますが、創造論者らは、そうは考えません。進化論は聖書にも、健全な科学にも矛盾す

るからです。一方、創造論は聖書に合致し、かつ健全な科学にも合致します。

聖書と科学の関係から、まずお話ししましょう。

じつは、かつて古代インド人は、地球は一頭の象の背に乗っており、その象は亀の上に、その亀はコブラの上に乗っていると考えていました。一方、古代エジプト人は、地球は五本の柱で支えられていると考えていました。

では聖書は、何と述べているのでしょうか。

「神は…地を何もない上に掛けられる」(ヨブ26章7節新改訳)

これは、今から約三千年も前に書かれたものですが、地球が目に見える何かで支えられているのではなく、「何もない上に」掛けられていると述べているのです。

聖書は、確かな知識からみて正しい記述をしています。聖書はまた地

球が丸く、球形であることも知っていました。

「主は地球のはるか上に座して、地に住む者を、いなごのように見られる」(イザヤ40章22節口語訳。新改訳では「地をおおう天蓋」と訳しているが、「おおう」「天蓋」等は原語にはない)。

ここに「地球」と訳された言葉は、原語のヘブル語の直訳では「地の円」です。この円形とは水平線の形を言ったものです。原始地球は、創世記によるとすべてが水におおわれているからです。ヨブ記26章10節には、「水のおもてに円を描いて、光とやみとの境とされた」と記されています。水平線は「光とやみ(昼と夜)の境」であり、それが円形になるように地球が造られました。

しかもこの「水平線の円」「地の円」は、平らな円形の大地(フラットアース)を意味しているではありません。ん。

「そのとき(地球創造の時)、わたし(神)は雲をその着物とし、黒雲をそのむつきとした」(ヨブ記38章9節)

この「むつき」とは、古代ユダヤ人などが、赤ん坊の体をグルグル巻きに包む、産着のことです。神は誕生したばかりの地球に、黒雲を産着のように包まれたのです。

つまり「地の円」「水平線の円」は、むしろ球形をさしていることがわかります。

他にも聖書中には、今日の確かな科学的知識からみて正しい記述が幾つもあります。たとえば地軸の傾きや、地表付近の水の循環、万国の中でのエルサレムの位置その他について、科学的に正しい記述をしています。

「しかし聖書は天動説を唱えているではないか」と言うかたもいらつしゃいますが、聖書は天動説ではありません。地動説を最初に唱えたコペルニクスは、聖書を熱心に信じる司教だったのです。

ガリレイも、地動説が聖書に矛盾しないことを説明する手紙を、大公妃クリスティーナと友人カステリに書き送っています。

天動説は高度な数学を用いて説明した中世の時代の科学だったのです。しかし「神がそんな不細工な宇宙を造るわけがない」として地動説を唱えたのが、コペルニクスやガリレイでした。

健全な科学理解を持つなら、進化論ではなく創造論が正しいことがわかります。



ガリレイ似顔絵



コペルニクス似顔絵



連載

第5回

わたしの日本宣教論

徒然草



聖書と日本フォーラム
仙台館やかた家の教会会員

佐藤 博

自刃は自殺に非ず、

『無名烈士の遺言』

時は大正13年(1924年)5月31日早朝の事です。アメリカの日本人排斥の具体的法案として上下両院で可決され、時のクリッジ大統領が署名した排日移民法に抗議すべく自刃した日本人が居ました。場所は赤坂のアメリカ大使館脇の空地です。関東大震災の一年後であり、一面焼け跡だった頃の話です。

*

移民国家として建国されたアメリカに於ける移民排斥運動は、カリフォルニア州から始まりました。太平洋を渡って来る東洋人はみな、西海岸に着くからです。それは日本人だけを



排日運動

ターゲットにする、排日運動に特化して行きました。日本人の勤勉さが原因です。そんな国民性が仇となり、すべて裏目、裏目と作用したのです。同じ移民の中国人や朝鮮人と比べ、数の上で日本人だけが突出していた訳ではありません。

百年前の日本人は根っからの農耕民族です。荒地を耕し土地を買い、農耕地を広げていきました。農業生産高の割以上が瞬く間に日本人で占める程になりました。法的手段を講じなければ、州全体が日本人に奪われてしまうという恐れです。中国人や朝鮮人は都市部へ住み、そこで商売

をするだけです。彼らは安い出稼ぎ労働者と見られていたのです。それに比べ日本人は農業一筋、自分たちだけの集団生活です。日本人への脅威とは、他の東洋人と余りにも異質であると思われた為です。

排他的と見られた一世に対しては、市民権すら与えられませんでした。重ねてアメリカ生まれの二世たちを日本に送り帰しては、日本人の心を忘れさせてはならないと子弟教育にも熱心だったからです。うわさの日本陰謀論という話までが、信憑性を帯びてきたのです。

日本人は日曜日だからといって教会に行く訳でもなく、年中百姓仕事に精を出す理解不能な労働中毒と見られたのです。労働が原罪の故などと思う者は、日本人とは無縁です。神様だって働くというのが、日本人の神観です(ヨハネ5章8〜17節)。

恐れを煽動したのは地元新聞の反日キャンペーンです。日本人には物を売らないというアメリカ人の反日感情と、日常的に繰り返される執拗な嫌がらせです。「ジャップ(日本人)と犬は、お断り」という貼り紙が町中にあふれる始末です。余談ですがヨーロッパの方でも、「ジュー(ユダヤ人)と犬は、お断り」のポスターが後日貼り出されるようになります。その結果の排日移民法の決議であり、アメリカ大統領の署名だったのです。その五日後に於ける、命を賭

した烈士の諫言という訳です。

*

烈士の遺言でもある檄文は、以下の通りです。曰く、『サイラス・イ・ウッズ閣下を通じてアメリカ合衆国民諸君の同情に訴ふ。最も能く日本を了解せられて、深く厚く日本に同情を寄せられたる米国大使サイラス・イ・ウッズ閣下の帰国に託して、全米国の反省を望む為め、死を以て切願す。大使閣下諒とせられんことを祈る。米国民の反省を望む用件左の如し。一、新移民法から排日条項を削除する法案を決議せられんことを。予が死を以て排日条項の削除を求むるものは、貴国が常に人道上の立場より平和を愛好唱道せられ、平和の指導者として世界に重きを思はしめつつある貴国が、率先して排日法案の如き人道を無視した決議を両院通過して法律となるが如きは、実に意外の感に耐えざるなり。人類生存上、憤怒する場合種々あるも、恥辱を与へられたる憤怒は耐え難きものなり。恥しめらるべき事情ありて恥しめらる、大いに悔い忍ばざるべからず。故なくして恥しめらる、憤怒せざらんと欲するも耐へ難きなり。予は日本人なり。今將に列国環視の前に於て、貴国の為めに恥しめらる。故なくして恥しめらる(故ありと言はば貴国の故にして他に通ぜざるの故なり)。生きて永く貴国人に怨を含むより、死して貴国より伝へられたる博愛の教義

を研究し、聖基督の批判を仰ぎ、併せて聖基督によりて貴国人民の反省を求め、尚一層幸福増進を祈ると共に、我日本人の恥しめられたる新移民法より排日条項の削除せられんことを祈らんとするにあり。大日本帝国 無名の一民』。

何と、彼はクリスチャンだったので。しかし只のクリスチャンではありません。真のもののふです。何よりの印は諫言に際し、武士の作法に則り腹を切っていたのです。彼は自分の為に死んだのではなく、

（ローマ14章7節）。

永らく生きて、アメリカとその国民を怨みたくはないが故に、アメリカ人から伝えられたキリスト教の精神に感謝しつつ、キリストの御許に行き直談判する他はないという決断です。それ故に日米友好を切に願ひ、アメリカへの祝福を祈つての自刃だったので。

このようなクリスチャンが、他の何処の国に居たでしょうか。彼こそが真の日本人キリスト者の鑑ではなかったでしょうか。

内村鑑三の言葉、『武士道は日本国最善の産物である。然し乍ら武士道其物に日本国を救ふの能力はない、武士道の台木に基督教を接いた物、其物は世界最善の産物であつて、之に日本国のみならず全世界を救ふの能力がある』が思い出されます。

彼は身元を示す物は何も持っていない

ませんでした。あえて持たなかったのかもしれない。その為今もって、無名のクリスチャンです。遺族もついに名乗り出なかつた為、無縁仏として埋葬される処でした。これを知つた頭山 満らが發起人となり、後日、無名の憂国クリスチャンの葬儀が執り行われました。

新聞等でこれを知つた弔問者は優に三万人を超え、国民葬の観を呈したとの事です。現在は青山墓地の片隅に埋葬され、「嗚呼無名烈士之墓」と頭山翁の揮毫による墓石が立っているとの事です。



嗚呼無名烈士之墓

この侍に比肩出来る者を聖書から探そうとすれば、旧約の侍モーセ（出エジプト32章30〜32節）と、新約の侍パウロ（ローマ9章1〜3節）の他には、私は一人も見つけられませんでした。

当然、日本のキリスト教界（会）の耳目は、このクリスチャンの死に集まつた筈です。しかし国籍が天にしかない者たちが、「彼の死」をどのように理解したのか少々気掛かりです。命日には仏式での法要が今も尚続けられているとの事です。キリスト者としての名誉は回復されたのでしょうか。

*

『われ太平洋の橋とならん』と語つたのは、〈Bushido: The Soul of Japan〉を著した新渡戸稲造です。しかし実際に「太平洋の架け橋」となつたのは、日系移民一世の子供である二世たちでした。アメリカ陸軍の歩兵部隊、通称「442連隊」の若者たちです（本誌49号参照）。

彼らもまた、自分の為にヨーロッパ戦線に行った者は一人もいませんでした。アメリカ市民としての忠誠心をアメリカに知らしめる為であり、一世の名誉の為であり、そして、三世以降の子供たちの手本となる為に戦つたのです。

それが、彼らに架せられた十字架への道です。連合軍の先鋒となり、真っ先にドイツ領内まで進攻し、ダッハウのユダヤ人収容所をナチス・ドイツの手から奪還したのも彼らだったので。

「日本人とユダヤ人」の間で展開される歴史を紐解く時、何も感じない日本人のクリスチャンが居るとすれば、『どういう聖書の読み方をしているのか』と言う他ありません。

二世たちの中には、本土に帰国し勉学中の者も少なくありませんでした。二重国籍の彼らはアメリカ国籍を捨てて、殆どの者が日本人としての学徒出陣でした。英語が堪能な二世たちの多くは通信傍受の要員として日本海軍に駆り出され、戦艦大和や巡洋艦矢矧に乗り組みまし

た。彼らの戦場は、水面下の鑑底近くにあつた通信室だったので。

英語訛りの日本語のせいで上官たちからは胡散臭く見られ、同じ日本兵たちからはいびられながら、沖繩に向かう途中の海で「水漬く屍」となりました。

当時をよく知る事が出来るテレビドラマがあります。橋田壽賀子の脚本による「99年の愛」です。史実の通りです。インターネットやDVDでも観る事が出来ます。「烈士の自刃」と「日本の近現代史」を、今の日本のクリスチャンたちが正しく理解する為には必見です。

私は聖基督の「福音」を伝えていくつもりのご同輩に、一言、お訊きたいのです。この「無名烈士の死」を『自殺』として片づけていいのですかと？

ローマ14章7〜10節

合掌



442連隊